

ドル/円相場のトレード戦略

■ 中長期展望

昨年末は米国の大統領選挙でトランプ氏が勝ったことにより、同氏の大型減税やインフラ投資政策、金融規制の緩和期待などから米景気加速を先取りする形でドルが上昇し、ドル/円は2ヶ月で20%近い大幅な上昇となりました。

【ドル/円 週足】



このドルの上昇は、それまでに積み上がっていたドルショート巻き戻しが先行し、その後ドル上昇を予想する投機筋によって一段と買い上げられたことによって急進しました。そのため、日本の投資家や実需筋は一気に上伸してしまった相場についていけず、ドルの買い遅れが目立つ形となっています。

しかし、本邦勢が期待するドル買い水準はかなり低く、相場が一旦調整モードに入ると、下押しは深くなる可能性があり、目処としては110円～113円水準を考えます。

調整入りのきっかけとしては、米財政政策の中身が期待はずれとなることや、国内生産を重視する新政権が円安けん制発言をすることなどが考えられます。

ただし、仮に大きな調整が入ったとしても、新政権の財政政策がドル高促進的なものであると期待させる限り、ドル高基調に変化はないものと思われます。

その場合は、ドルは一昨年の高値を抜け、130円水準が視野に入ってくる可能性も否定できません。ドル上昇を基本シナリオとした場合、リスクもはっきりしており、それはトランプ政権が実際に打ち出す政策が市場を失望させるものであり、米景気に陰りが出てくることであると考えられ、トレ

ドル/円相場のトレード戦略

ードに際しては米景気動向に注意していく必要があるでしょう。

■ 短期展望

先週は、117円台でスタートしたものの、トランプ新大統領の会見で経済政策などの詳細について言及しなかったことに対する失望や保護主義的な通商政策に対する警戒の高まりで、ポジション調整的なドル売りが優勢な展開となり、一時昨年12月8日以来となる113円76銭まで下落しました。

今週もドルロングの調整が継続する可能性があり、ドルの上値が重い動きが予想されるものの、新政権による減税やインフラ投資などの拡張的な財政政策に対する期待は継続されており、ドル安の流れへと転換することは考えにくい状況です。

また、今週末の大統領就任演説の際に具体的な財経済政策へ言及する可能性は高く、期待感が再燃した場合は、再び118円台を目指す動きとなりそうです。

したがって、今週は週前半では113円割れの下押しリスクを意識するものの、週後半に向けてはドルが反発する展開を期待したいところです。